

「東北学院中高校の赤レンガ校舎」特集

- ①「姿を消す赤レンガ校舎」
東北学院時報 第347号 1978(昭和53)年12月15日発行
- ②「生れかわる赤レンガ校舎」
東北学院時報 第350号 1979(昭和54)年3月15日発行
- ③「災害を乗り越えて ―赤レンガ校舎の竣工―」
東北学院時報 第730号 2015(平成27)年11月15日発行
- ④ 写真 赤レンガ見送り記念 1979(昭和54)年3月8日撮影

2024年11月1日作成

東北学院同窓会近畿支部
(TG青葉親睦会)



④ 赤レンガ見送り記念 1979(昭和54)年3月8日撮影

(東北学院史資料センター提供)

この資料は東北学院校友課からいただいた写真及び東北学院時報掲載記事をもとに
近畿支部が編集したもので、不鮮明な部分があります。ご了承ください。
本件の問い合わせは近畿支部 庄子(090-5053-6406)までお願いします。

生れかわる赤レンガ校舎

市民にも親しまれて半世紀

跡地にシュネーダー記念館

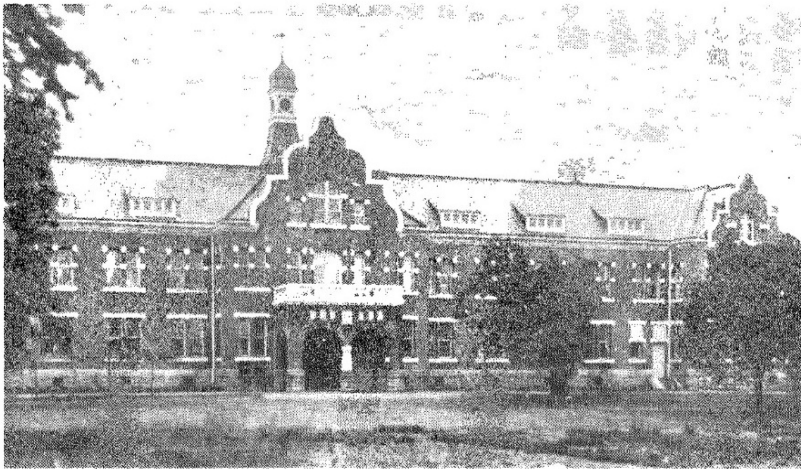
労苦をたたえて見送り式

わが東北学院のシンボルの存在 数訪れた。
であった。愛宕町通りの中学校高等学校の赤レンガ校舎が、いよいよよ月中旬に取り壊れることになった。この校舎、学んだことのある者はとて、ここに親しんだ教職員、生徒、同窓生の情別れ思いがまじり、五十年にわたる労苦をたたえて、異例の「見送り式」が去る3月8日(木)と行なわれた。
この日午後1時、小田理事長、田口校長はじめ、在仙の理事、教職員、代表の生徒たち、工事関係者など約百五十名が、この校舎の前に集り、また長い間市民にも親しまれてきたというので、在仙報道関係各社からも取材記者が多

わが東北学院のシンボルの存在 数訪れた。
であった。愛宕町通りの中学校高等学校の赤レンガ校舎が、いよいよよ月中旬に取り壊れることになった。この校舎、学んだことのある者はとて、ここに親しんだ教職員、生徒、同窓生の情別れ思いがまじり、五十年にわたる労苦をたたえて、異例の「見送り式」が去る3月8日(木)と行なわれた。
この日午後1時、小田理事長、田口校長はじめ、在仙の理事、教職員、代表の生徒たち、工事関係者など約百五十名が、この校舎の前に集り、また長い間市民にも親しまれてきたというので、在仙報道関係各社からも取材記者が多



解体される赤レンガ校舎



赤レンガ校舎の前身で明治38年に建てられた壮麗な普通科校舎

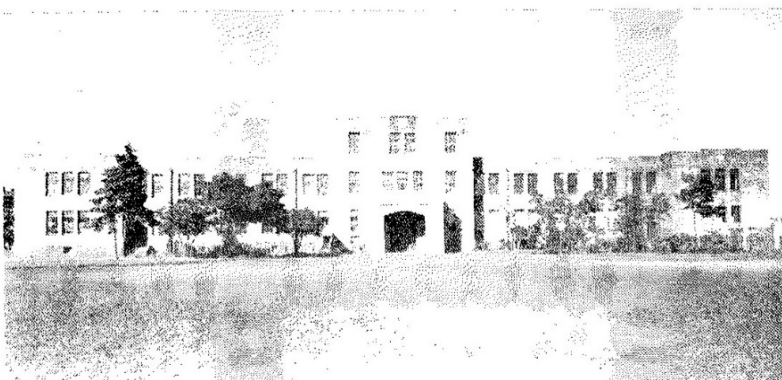


田口校長の惜別の辞

この後の中学部校舎再建に取り組んだシュネーダー院長はじめ、教職員、生徒、同窓生の一致協力によって東北学院の歴史に残るものであった。同窓会の奮起は特筆すべきで、「昔く江湖の同情に訴う」との檄をばし、強力な募金運動を全国に展開した。献身的努力が実をむすび、再び赤レンガ校舎が内部を堅固にして再びそ

姿を消す赤レンガ校舎

あまた同窓の限りない思い出を残して



ありし日の栄光の赤レンガ校舎

奥一番通りにある東北学院のシンボル、赤レンガ校舎が近くその姿を消すことになった。東北学院中学部、戦前・戦後の旧制中学校その後の新制中学校、高等学校に学んだ同窓生にとって、忘れられないあまたの思い出を残した学舎(まなびや)であった。
「何故なくなるのか。」との数多くの同窓生たちの当然の声にもかかわらず、この校舎(わずかに残されていた中央部分)を取りはらう意図は、追いつくのは、去る6月12日突然襲った宮城東部地震であった。
この赤レンガの校舎は、大正8年3月2日の仙台大火の際に被災し焼失した中学部校舎(元普通科校舎)に代るものとして建築された。シュネーダー院長の献身的努力、同窓生、教職員、学生三々となつての成果であった。大正11年3月竣工し、夏休中に内部の設備が完了、9月の第二期の始業式から中学部の新校舎として使用された。以来、この建物は、幾度かの大地震、

そして戦時中の仙台空襲にもめげず、その堅固な、瀟灑な威容を誇ってきた。この校舎の正面玄関に掲げられた「LIFE NIGHT LOVE」のシュネーダー院長の示されたこととして、数多くの同窓生的心中に今なお生きつづけている。
しかしながら、時の流れは、この校舎その姿を消さずにはいかなかった。まず、終戦の荒廃から立ち直った仙台市の市街地整備都市計画による東二番通りの拡張に従って、昭和33年3月本町の期強で校舎の東側の部分、理科教室が取り払われた。ついで昭和39年1月、戦時中の難民による老朽化、加えて生徒増のための手狭さの理由で西側がすべて取りこまれた。この跡に現在の高校舎が礼拝堂と共に昭和40年11月新築された。
赤レンガ校舎を築く同窓生の思いは、決して消えない。シュネーダー院長の遺徳を偲んで、再び新しい学舎が建つ日も近い。



災害を乗り越えて

『赤レンガ校舎』の竣工

今から三十六年前の一九七九年三月、赤レンガ校舎として親しまれた学院中学校・高等学校校舎が皆に惜しまれつつ解体されることになりました(写真左)。この校舎が建てられたのは一九二三年。空襲や台風、地震などの様々な災害を経験してきた『赤レンガ校舎』ですが、その誕生もまた災害によるものでした。
一九一九年三月二日午前二時四十分ごろ、南町付近で発生した火事は折からの暴風にあおられ、町中を包み込む大火

シリーズ 東北学院時報 ③



藤崎百貨店(経営者)、伊澤平左衛門(勝山酒蔵経営者、後に七十七銀行頭取)、八木久兵衛(紅久経営者、一力健治郎(河北新報創業家)など。さらに、土井晩翠(本名の

後の一九二三年十一月一日、新しい中学校校舎が無事落成しました。『赤レンガ校舎』は、多くの人々の献身の証しでもあります。そして災害という苦難を乗り越えた象徴でもあります。

林吉で寄付)、岩野泡鳴(小説家、東北学院神学部中退といった文化人や、岩崎小弥太(三菱財閥総帥)、渋沢栄一(第一国立銀行などの創設者)、高橋是清(第二十代総理大臣、井上準之助(日本銀行第九代、十一代総裁)といった経済界や政界の重鎮たちからも多額の寄付が送られてきました。
こうして集められた寄付金をもとに、新校舎の再建が進められ、三年